



Title	タジキスタン政治の変遷 : 世俗・宗教関係の考察
Author(s)	周, 耿生; CHOU, Keng-Sheng; 熊倉, 潤//要旨翻訳・追記 他
Citation	日本中央アジア学会報, 15, 113-113
Issue Date	2019-07-31
DOI	https://doi.org/10.14943/jacas.15.113
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/88365
Type	journal article
File Information	JB015_017chou.pdf



タジキスタン政治の変遷 —— 世俗・宗教関係の考察 ——

周 耿生

本報告では、独立以来のタジキスタンの国内政治を分析した。タジキスタンは中央アジアで唯一、ソ連解体後の独立に伴い、深刻な内戦が発生した国家である。タジキスタンで内戦が発生した原因は数多いが、イスラームの要素もまた内戦発生に必要な要因の一つである。本報告は、この観察から出発し、タジキスタンの政治構造の中にあるイスラームの要素が、様々な時期にもたらした影響を探究するとともに、政治体制の移行の観点から、現在のタジキスタン政治権力構造の中にある世俗とイスラームの要素の調和を分析した。

独立以来のタジキスタン政治の変遷を概観すると、これまでの政治の発展により大統領の専制と弱い議会からなる体制が形成されたと言えよう。タジキスタン政府も国外の反テロの情勢を利用し、国内で行政権力と司法権力を入れ替わり用いて、イスラーム政治勢力を分裂させ、打撃を与えた。さらに、中国の「一帯一路」政策により、インフラ建設を積極的に進め、経済を発展させ、長引く地域主義的分裂の状態を変えようとしている。他方、ラフモン大統領の後継問題、イスラーム過激派の更なる過激化、中国、ロシア等大国の外からの介入も、今後のタジキスタン政治の発展の重要な変数となっていると言えよう。

(馬偕醫護管理專科學校、台湾)

追記

2018年度年次大会では、台湾中央アジア学会より方麗娟先生、周耿生先生をお迎えし、公開講演を実施した。講演に引き続き、質疑応答が行われた。「中国元代医書に見る「回回医学」の特徴」に対しては、伝来した医学書の問題、翻訳の問題等について、フロアから質問が提起された。「タジキスタン政治の変遷—— 世俗・宗教関係の考察」に対しては、タジキスタン政府とイスラーム政治勢力の関わりについて、また中国の影響力等について、質問が出された。質疑応答を通じて、両先生との学術交流を深めることができた。

要旨翻訳・追記 熊倉 潤(アジア経済研究所)